

『東京 2020 大会に向けたボランティア戦略』の概要について

1 東京 2020 大会のボランティア

(1) 一体的なボランティア運営

- ・組織委員会と連携し、**戦略を一体的に策定・公表**
- ・戦略策定後は、募集、研修から運用、大会後に向けた取組等、可能な限り都と組織委員会とが、**一体となったボランティアの運営を図る**

(2) 9 万人以上が活躍

- ・競技会場、選手村などの大会関係施設において、会場内の観客の案内・誘導、受付業務、競技運営のサポート等、直接大会運営に携わる大会ボランティア（組織委員会）
- ・空港や主要駅、観光地等において、国内外からの旅行者に対する観光・交通案内、競技会場の最寄駅周辺における観客への案内等を行う都市ボランティア（都）

2 戦略の主な内容

(1) 各自治体等との連携

ア 各自治体・団体との連携

- ・競技会場を有する都外自治体
ユニフォーム等の統一化、研修の共有化
- ・被災地をはじめとする全国自治体
全国観光情報の発信等による大会開催効果の全国への波及
- ・都内区市町村など
日頃から地域で活動している団体、交通事業者等との連携

イ より多くの都民が参加できる取組

参加意欲のある都民が大会の担い手であると実感できる取組を検討

ウ ラグビーワールドカップ 2019™との連携

都市ボランティアの募集を平成 29 年度に一部前倒して実施し、ラグビーワールドカップ 2019™での経験を大会に繋げる

(2) 多様な参加者の確保

ア 障がい者

- ・募集、研修、配置等、それぞれのプロセスにおける環境整備に取り組む（例：バリアフリー、障がい者用トイレの整備状況等）

イ 児童・生徒

- ・都内の小学生・中学生・高校生のボランティア体験
- ・都内に加え、被災地等の中学生・高校生が大会運営を体験できる場についても検討

ウ 働く世代・子育て世代

- ・ボランティア休暇の整備・取得促進
- ・託児所の利用等、子育て世代も参加しやすい環境の検討

(3) 募集

応募条件検討の方向性

	大会ボランティア	都市ボランティア
年齢	平成 32（2020）年 4 月 1 日時点で満 18 歳以上の方	
活動日数等	<ul style="list-style-type: none"> ・10 日以上 ・日本国籍を有する方又は日本に滞在する資格を有する方 	<ul style="list-style-type: none"> ・5 日以上 ・日本国籍を有する方又は日本に居住する資格を有する方

(4) 研修等

- ・都と組織委員会が連携し、共通的な研修（接遇、大会概要など）を実施
- ・多言語対応への取組等を検討（例：配布物、ICT の活用）

(5) 参加気運の醸成・裾野拡大

- ・シンポジウムやウェブサイトを通じ、ボランティアの魅力を発信
- ・今後、魅力あるユニフォームやネーミング等、東京 2020 大会のボランティアに参加したくなるような取組を検討

(6) 大会後のレガシー

- ・大会後もボランティアとして活躍できる仕組みを構築するため、関係局や関係機関と連携しながら検討

3 スケジュール

平成 30（2018）年夏ごろ募集開始

※都市ボランティアは、ラグビーワールドカップ 2019™に向け、平成 29（2017）年度末頃から一部前倒して募集